第４分科会　研究課題「組織・運営に関する課題」
研究主題「コミュニティ・スクール推進に向けての教頭の関わり」

宮崎支会　　宮崎市立大宮小学校　中　啓子

１　主題設定の理由

社会に開かれた教育課程とそのカリキュラム・マネジメントにおいて、地域との連携・協力は大変重要である。そのため文部科学省は、学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちをはぐくむ「地域とともにある学校づくり」を推進している。

この「地域とともにある学校づくり」に向けた有効な仕組みとして導入が進められているのがコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）である。これは学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第４７条の５）に基づいた仕組みであり、宮崎市でも全小中学校において、令和５年度までの導入が予定されている。

この導入においては、地域や保護者への丁寧な説明や細やかな連携・協力が大切であり、学校と保護者・地域との橋渡し役を担う役割が大変重要となっている。しかしながら、職員の多くがその趣旨や活動内容について理解できていない状況や関わり方への不安を口にする職員も少なくない。

そこで、コミュニティ・スクール導入に向けた教頭の関わりや取組を検証するために本主題を設定した。

２　研究のねらい

学校と地域との連携・協働を発展させるコミュニティー・スクール推進に向けた教頭の関わりを調査・検証し、教頭としてのよりよい関わり方を究明する。

３　研究の概要（実際）

（１）　研究の内容

①　コミュニティ・スクールについての共通理解の推進

②　学校と地域の協働に向けた基盤づくりの工夫～大宮中学校区の実践を通して～

（２）　研究の実際

①　コミュニティ・スクールについての共通理解の推進

職員のコミュニティ・スクールそのものへの知識が不十分である状況が見えたことで、各学校で夏季休業中を利用し、職員研修を行った。その際、宮崎市企画総務課の協力を仰ぎ、市が管理職向けに実施した資料や市が発行しているパンフレットを利用した。

【東大宮小学校での職員研修の様子】

この研修ではコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の趣旨はもちろんのこと、これまでの学校評価委員と何がどのように異なるのかといった基本的な部分の確認を行った。各学校での研修後、以下のような感想や疑問が出された。

- 概要は理解できたが、外部と学校をつなぐことには、解決すべき課題が多いと感じた。
- 地域の人とどんなことをするのか、もっと知りたい。
- 何となく地域の方が見守ってくれていると思うと安心できる。
- コミュニティスクールが本校でも始まったが、私たち教員は一体何をすればいいのか今一つよく分からない。
- 働き方改革の観点から考えて地域の人たちに平日や休みなどにボランティアとして任せることは、できることに限りがあるのではないか。
- 地域を素材とした生活科や社会科見学等で連携を図りたいが、事前の打ち合わせ等で担当の教職員に負担がかからないようにする必要がある。
- 大宮中学校区の取組の中で、テストの丸付けをされていたが、そのような取組が増えるとよい。
- 隣の大宮中で取り組んでいることを知らなかった。
- 子どもは地域の中で育つことが理想だと思うが、コロナ禍では難しい。もっと地域の人材を活用して、教育活動をしたいのだが・・・。

②　学校と地域の協働に向けた基盤づくりの工夫

ア　学校運営協議会との連携（大宮小）

大宮中学校区（大宮中・大宮小・池内小）では昨年度からコミュニティ・スクールが導入されている。

事務局は毎年輪番制となっており、昨年度は大宮小、今年度は池内小である。

５月に行われた第１回学校運営協議会で、各学校の校長が学校経営方針の説明を行った。その際大宮小からは「家庭・地域と協働で取り組む教育の推進（地域コミュニティとの融合）」に力を入れていきたいとし、その具体的な取組として「地域と連携して「あいさつ日本一」を目指していくことや、地域の防災訓練や文化祭等の行事に積極的に参加する児童の育成を図りたいと説明を行い承認を得た。

コロナ禍以前、大宮小学校は高学年を中心としたあいさつ運動やボランティア活動が盛んな学校であったが、この２年間、活動はほぼ休止状態であった。

年度当初、６学年児童から活動を始めたいという希望が出されたこともあり、早速、朝のあいさつ運動に取り組み始めた。登校時、６年生の「おはようございます」の声が聞こえ始めると、徐々に活動への参加希望者が増えた。

第１回運営協議会において、学校として今後、のぼり旗を作成し保護者や地域への周知を図ることで児童の自主性を伸ばし、いずれは地域貢献へ目を向けさせていきたいという考えを説明した。

その際、協議会委員の方から、その活動に期待しているという趣旨の意見が出されただけではなく、後日、そこでの内容がまちづくり運営協議会に伝わり、のぼり旗の予算を担うという提案をいただいた。のぼり旗の予算捻出に頭を悩ませていたところであったため、学校としては大変ありがたい申し出であった。

のぼり旗が提供されたことで、朝の活動はさらに勢いが増した。その後、校内清掃にも取り組みたいという希望が出され、登校後、校舎の清掃活動にも取り組む児童が出始め児童の活動に活気が出た。

後日、これまでの継続した交通安全教育が評価され県警察本部・県交通安全協会より表彰を受けたことは、児童や保護者にとっても非常に喜ばしいことであった。

【朝のあいさつ運動の様子】

【校内清掃の様子】

イ　民生委員・児童委員との連携（池内小）

夏休みに２年ぶり行った「民生委員・児童委員との連絡協議会」を通して、地域との情報共有の大事さを全職員感じていた。この協議会を経て学校運営協議会について知らせたことにより、学校と地域の連携の大切さや地域の子どもたちを育てるという学校の存在意義等を改めて感じることができたという感想があった。

【池内小での様子】

４　成果と課題（○　成果　●　課題）

○　行政と協力して職員研修を実施したことで効果のある職員研修となった。

○　学校の課題を地域と共有したことが、よりよい教育活動へとつながった。

●　この制度への理解は学校も家庭も地域もまだまだ不十分である。連携を推進するためには、管理職が行政と協力しながら周知活動に継続して取り組む必要がある。

●　学校で取り組む内容について理解や協力を得るために可視化していく必要がある。

●　他地域の状況を伝えることで、自分の中学校区の見通しに役立てることができるので、教頭として情報提供をしていく必要がある

５　おわりに

今年度の研究は、予想はしていたものの実に手探りであった。研究を進めるには、窓口となる教頭の姿勢が問われると感じた。県教育研修センターの所長が言われる『「地域」があって、「子ども」がいて、「学校」がある。』この言葉が今、改めて、強く響いてくる。今後、学校経営において、コミュニティ・スクールの推進は疑いなくその成否を左右すると思われる。行政の協力も仰ぎながら、推進を進めていきたい。